

的に、当該家族以外の者がたんの吸引を適正に行うことができていることを確認する。

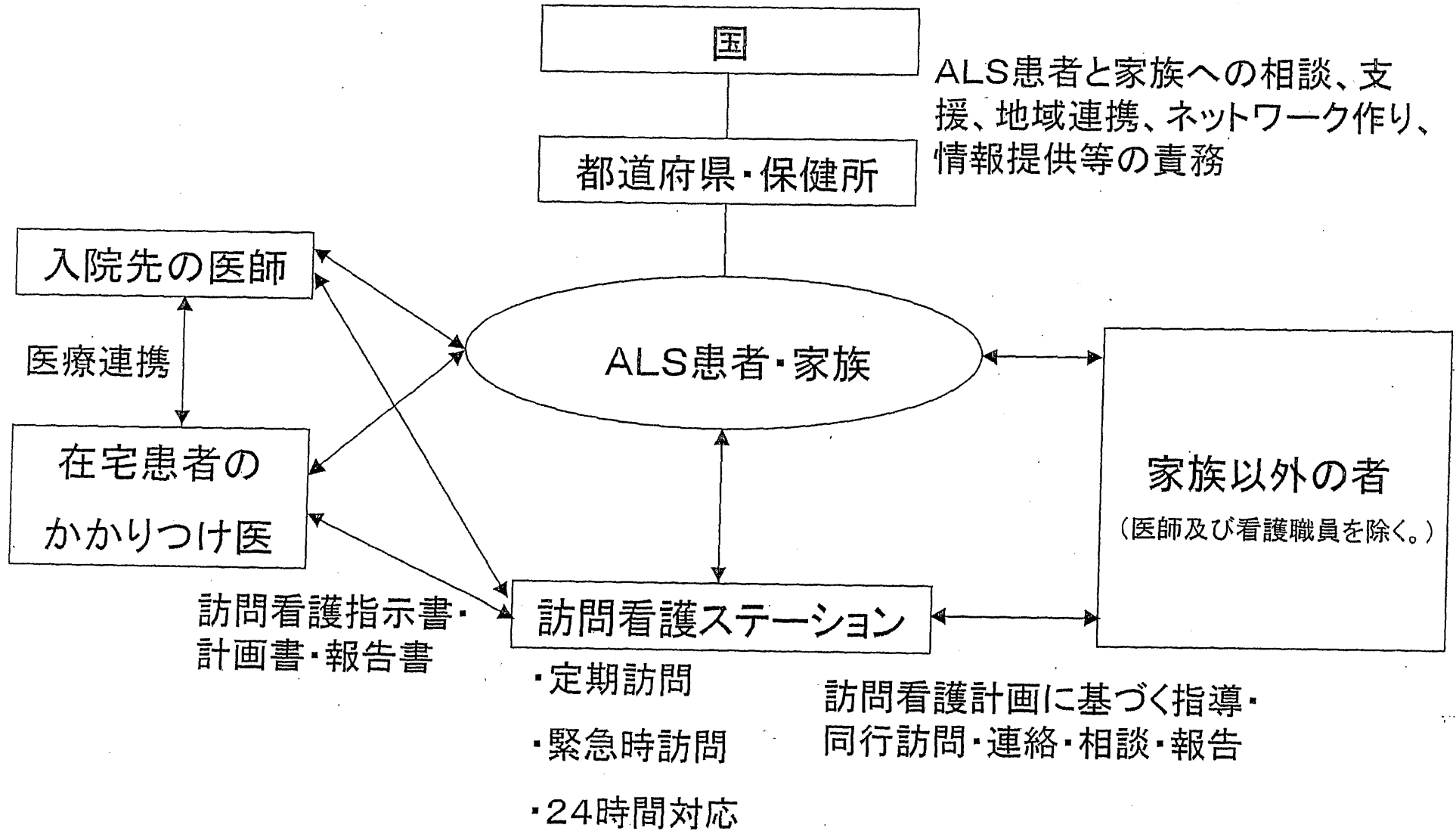
vi) 緊急時の連絡・支援体制の確保

- 家族、入院先の医師、在宅患者のかかりつけ医、訪問看護職員、保健所の保健師等及び家族以外の者等の中で、緊急時の連絡・支援体制を確保する。

4. おわりに

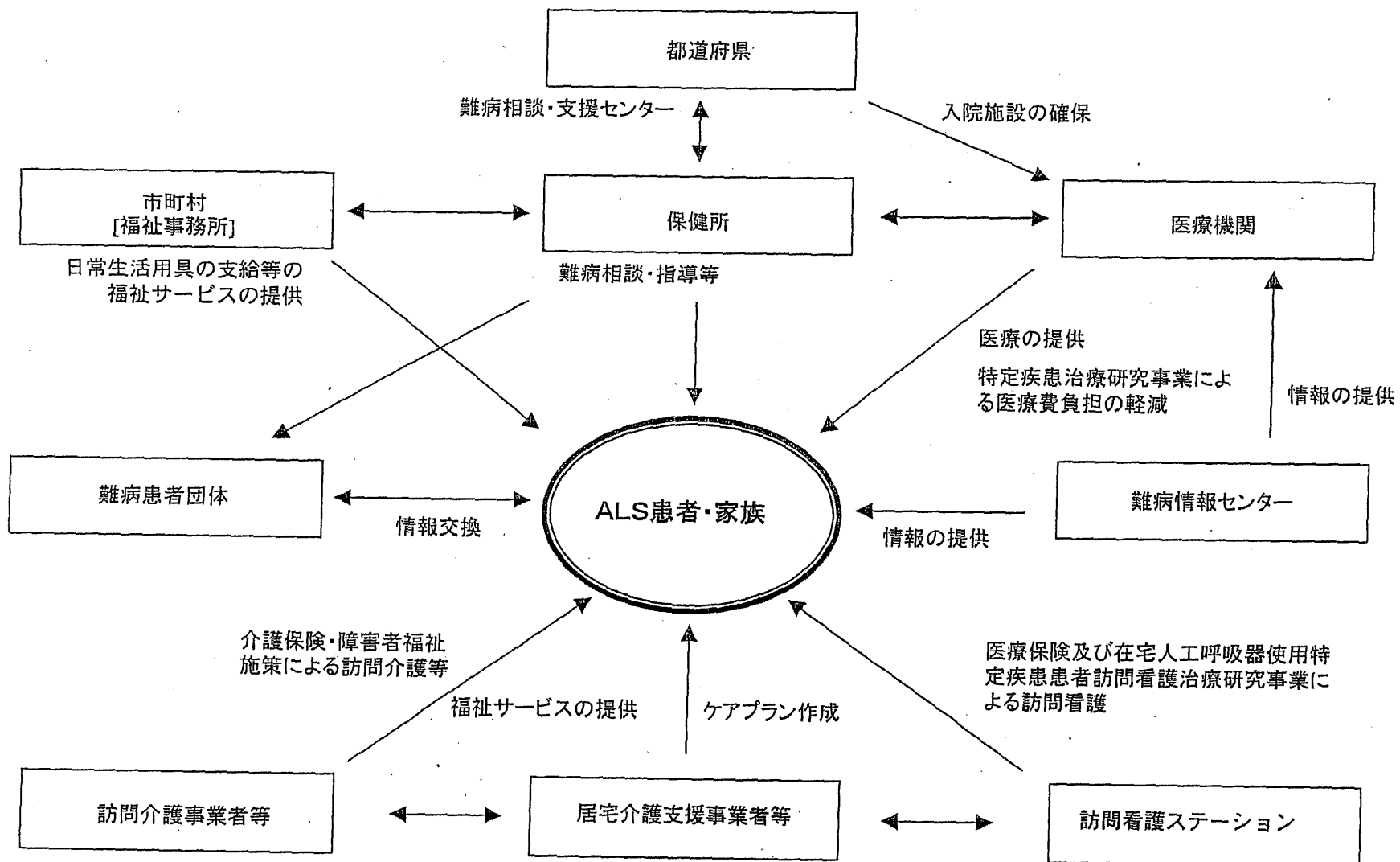
- 本検討会では、在宅ALS患者の在宅療養環境の向上を図るとともに、患者及び家族の負担を軽減する観点から、必要な措置について検討を重ねてきた。
- これらの措置が有効に機能するためには、在宅ALS患者の療養生活を支援する関係者が一体となって取り組むことが不可欠である。国及び地方公共団体を始め、関係者の更なる努力によって、これらの措置が着実に実行され、患者及び家族の療養環境が向上していくことが望まれる。
- なお、本検討会での議論において、在宅医療に携わる者の行う業務や今後の医療と福祉の役割分担も含めた在宅医療の在り方についての議論の必要性が認識されたところであり、これについては、今後の検討課題として早急に検討されるべきであることを申し添える。

在宅ALS患者のたんの吸引における訪問看護と家族以外の者との連携



ALS患者を支援する主な事業(平成15年度)

(参考1)



(参考2)

看護師等によるALS患者の在宅療養支援に関する分科会
委員名簿 (五十音順)

- | | |
|--------|---------------------------|
| 伊藤道哉 | 東北大学大学院医学系研究科講師 |
| 川村佐和子 | 東京都立保健科学大学保健科学部
看護学科教授 |
| 五阿弥宏安 | (株)読売新聞社論説委員 |
| 平林勝政 | 國學院大學副学長・法学部教授 |
| 福永秀敏 | 国立療養所南九州病院長 |
| 星北斗 | (社)日本医師会常任理事 |
| ○ 前田雅英 | 東京都立大学法学部教授 |
| 山崎摩耶 | (社)日本看護協会常任理事 |

(○：座長)

(参考3)

「看護師等によるALS患者の在宅療養支援に関する分科会」

これまでの検討経緯

回数	開催日時	議事内容
第1回	2月3日(月) 17:00~19:00	① ALS(筋萎縮性側索硬化症)に関する概況説明 ② 看護師がALS患者に行う一時的吸引法について
第2回	2月10日(月) 17:00~19:00	患者家族等関係者からのヒアリング
第3回	2月19日(水) 10:00~12:00	在宅のALS患者に対するたんの吸引行為についての患者・家族の負担の軽減を図るための方策について
第4回	3月10日(月) 17:00~19:00	在宅ALS患者対策の現状と課題について
第5回	3月26日(水) 10:00~12:00	① 在宅ALS患者対策の現状と課題について ② たんの吸引の医学的整理
第6回	4月15日(火) 17:30~20:00	① 在宅ALS患者対策の現状と課題について ② これまでの議論の整理
第7回	4月22日(火) 10:00~12:00	① 家族以外の者がたんの吸引を行う場合の条件について ② これまでの議論の取りまとめ
第8回	5月13日(火) 18:00~20:00	報告書案について

同意書(例)

平成 年 月 日

氏名 (家族以外の者の氏名) 様

住所 (家族以外の者の住所)

患者氏名 (署名又は記名押印)

私は、あなたがたんの吸引を行うことに同意いたします。

代理人・代筆者氏名
(署名又は記名押印)

同席者氏名
(署名又は記名押印)

※ 患者が未成年者である場合又は患者が署名若しくは記名押印を行うことが困難な場合には、家族等の代理人・代筆者が記入し、当該代理人・代筆者も署名又は記名押印を行ってください。この場合、第3者が同席し、当該同席者も署名又は記名押印を行うことが望ましいものです。